

2025年10月8日付の本欄に、「複都構想と題して寄稿させていただいた。拙稿を大阪市内の大学で都市計画や建築を学んでいる大学院生に読んでもらい、意見を聞く機会を得た。大阪では副首都構想についての議論があるためか、若い人たちにとっても自分たちの将来に関する重要な関心事であるようだ。前向きな意見を多くいただいた。大学院生たちの意見を紹介することにより、このテーマについての検討を深める機会としたい。

動を担う複数の拠点を日本全体にバランスよく配置して、そこを核として地方を活性化することを目指したものである。内閣官房などの一部の行政機関を除く国の機能の相当部分を政令指定都市やリニア中央新幹線の駅近くなどに移転する。行政と政治や経済は密接に連携する必要

# 統「複」都構想 (上)

筆者の提案は、社会、経済活  
いた。大学院生たちの意見を紹  
介することにより、このテーマ  
についての検討を深める機会と  
したい。

筆者が意見を聞くことができた大学院生の約9割は大阪府内の出身であった。その学生たちの意見として、東京と大阪だけが強ければ良いという発想ではなく、より多くの都市がそれぞれの特徴を生かしながら役割を分担することが、日本全体の底上げにつながるという提案に強く共感したと述べられていた。

学生たちの目にも、国際的な安全保障環境が不確実性を増し、攻撃や事故により国家機能がまひする可能性があると見えており、レジリエンスが求められる現代において看過できない

ソフトワーク型の構造へ転換すること、将来、学生たちが専門家として取り組むことになる都市計画や建築の分野が果たすべき大きな役割であると認識して  
いた。

止めた。これが、  
地方が単なる補完ではなく、  
国家を支える中心となり得る」とは、「複」都構想の大きな魅  
力である。

きと 大学院生たちは考え方で  
た。これからの時代を担つてい  
く若い人たちに、複数の拠点が  
それぞれの強みを生かして役割  
分担をするという考え方は、非  
常に現代的であり、合理的と受  
け止められた。

地方が単なる補完ではなく、  
国家を支える中心となり得る」  
とは、「複数」都構想の大きな魅  
力である。

「複」都構想を、建築・都市計画の視点から、国土レベルでの冗長性の確保、すなわち国家機

とする。従つて国家機能の分散は「地方振興策」としてだけでなく、国家存続を確保する制